

ロイヤルエンジニアリング株式会社

2017年度 環境活動レポート

(2017年1月～2017年12月)

文書番号：RE-00



認証番号0005780

作成 2018年 3月 20日

改定 2018年 4月 23日

承認者	確認者	作成者
萩谷	山口	末次

代表取締役

萩谷 忠昭



〔 目次 〕

1. 組織の概要
2. 認証・登録の対象範囲
3. 環境方針
4. 環境経営システム組織図
5. 環境負荷の年間実績推移
6. 環境目標及び実績
 - 1) 中期環境目標
 - 2) 環境目標の実績
7. 環境活動計画の取組結果と評価
 - 1) 二酸化炭素排出量削減(節電)
 - 2) 二酸化炭素排出量削減(燃料)
 - 3) 再生プラ量削減
 - 4) 廃棄物排出量削減
 - 5) 水道水の削減
 - 6) グリーン調達
 - 7) 環境配慮の製品の提案
8. 次年度の取組内容
9. 環境関連法規等遵守状況
10. 代表者による評価及び見直し



1. 組織の概要

- (1) 事業所名及び代表者名
ロイヤルエンジニアリング株式会社
代表取締役社長 萩谷 忠昭



- (2) 所在地

- ① 本社：千葉県我孫子市天王台3-3-5
- ② ハジー館（ハジー事業部）：千葉県我孫子市天王台3-2-21
- ③ ロイヤル館（研究所）：千葉県我孫子市天王台3-2-5

- (3) 環境管理責任者氏名及び連絡先

責任者 山口 智哉
TEL 04-7183-6100

- (4) 事業の規模

活動規模	単位	2016年	2017年	比較
生産量	kg	4,466	7,176	160.7%
売上高	百万円	413	345	83.5%
従業員	人	20	19	95.0%
床面積	m ²	480	480	100.0%

床面積（本社）314.35（ハジー事業部）99.36（研究所）66.79 [単位：m²]
人員（本社）12.5（ハジー事業部）6.5 [単位：人] ※研究所は常時人員不在

- (5) 事業年度

10月から翌9月

- (6) 事業内容

- ・プラスチック精密部品製作
- ・精密亜鉛及びアルミダイカスト製作
- ・注型、樹脂加工、金属加工
- ・試作品の設計製作
- ・金型及び成形に関するコンサルティング
- ・「E.S.スプルーブッシュ」及び「ecoウェルドレス金型」の製作販売
- ・真空保存容器の製造販売

2. 認証・登録の対象範囲

認証・登録番号：0005780

認証・登録年月日：2010/09/16

認証・登録事業者名：ロイヤルエンジニアリング株式会社

対象事業所名：本社・工場、ハジー事業部（ハジー館）、研究所（ロイヤル館）

所在地：千葉県我孫子市天王台3-3-5

事業活動内容：精密プラスチック部品の成形及び金型製作、注型・樹脂加工・
金属加工試作品の設計製作、真空保存容器の製造販売

3. 環境方針

ロイヤルエンジニアリング株式会社

環境方針

環境理念

ロイヤルエンジニアリング株式会社は美しくかけがえのない地球を子々孫々まで残すためにはどうしたらよいかを常に考え、そして自然の摂理に即した仕事を通して社員全員が今自分達にできることに一つ一つ取り組んでいきます。

行動方針

1. 事業活動を通じて省エネルギー・省資源の推進をはかる。
2. 事業活動によって生じる廃棄物の削減及びリサイクルに取り組む。
3. 環境や省資源に配慮した製品の購入を心懸ける。
4. 環境や省資源に配慮した製品を顧客に提案する。
5. 環境関連の法規制及び協定等を遵守する。
6. 全従業員にこの環境方針を周知させ、環境に関する教育訓練を行うと共に社外に公表する。
7. 環境保全に対する目標を定めそれに取り組み、定期的に見直しをすることにより環境マネジメントシステムの継続的な改善を行う。



改定日 2017年1月25日
ロイヤルエンジニアリング株式会社

代表取締役

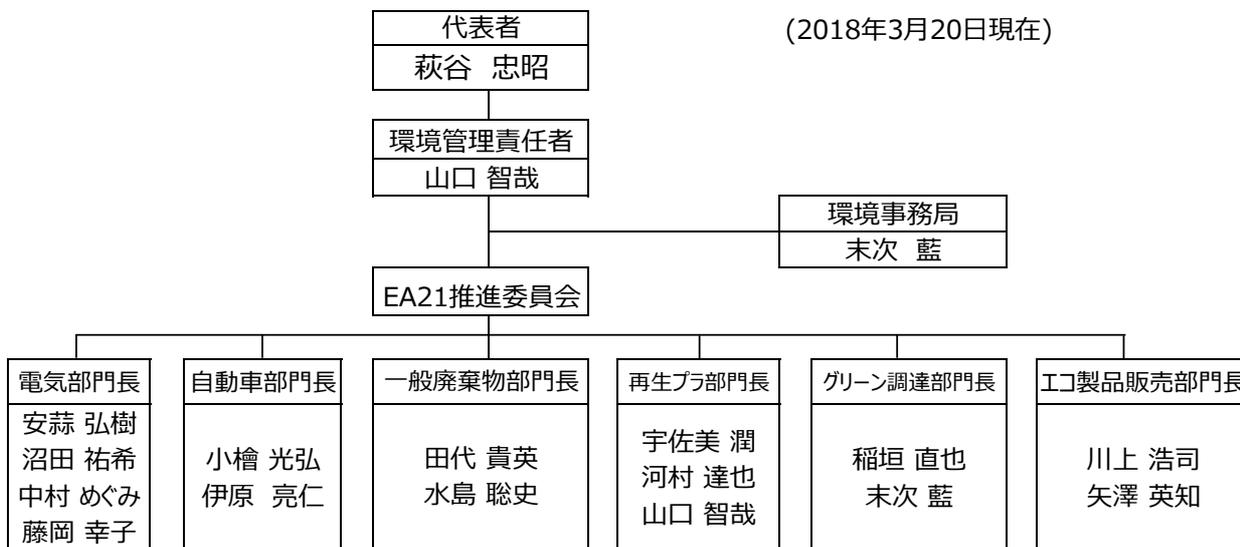
萩谷 忠昭

4. 環境経営システム組織図



環境経営システム組織図

(2018年3月20日現在)



環境経営システム 役割・責任・権限表

	役割・責任・権限
代表者（社長）	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営に関する統括責任。 環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間、技能、技術者を準備。 環境管理責任者を任命。 環境方針の策定・見直し及び全従業員へ周知 環境目標・環境活動計画書を承認。 代表者による全体の評価と見直しを実施。 環境活動レポートの承認。
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営システムの構築、実施、管理し、代表者へ報告。 環境関連法規等の取りまとめ票を承認。 環境目標・環境活動計画書を確認。 環境活動レポートの確認。 従業員に対する教育訓練の実施 内部コミュニケーションの実施
環境事務局	<ul style="list-style-type: none"> 環境管理責任者の補佐、EA21推進委員会の事務局。 環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施。 環境目標、環境活動計画書原案の作成。 環境活動の実績集計。 環境関連法規等取りまとめ表の作成 環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施。 環境関連の外部コミュニケーションの窓口。 環境活動レポートの作成、公開（事務所に備付けと地域事務局への送付）
部門長	<ul style="list-style-type: none"> 自部門における環境経営システムの実施。 自部門における環境方針の周知。 自部門に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の環境管理責任者に報告。 自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施。
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> 環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚。 決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加。

5. 環境負荷の年間実績推移

1) 事業規模の推移

活動規模	単位	2016年	2017年	比較
生産量	kg	4,466	7,176	160.7%
売上高	百万円	413	345	83.5%
従業員	人	20	19	95.0%
床面積	m ²	480	480	100.0%

2) 環境負荷の実績推移

環境への負荷		単位	2015年	2016年	2017年	
① 温室効果ガス排出量	二酸化炭素 ※	Kg-CO ₂	53,253	56,544	58,684	
② 廃棄物排出量	一般廃棄物	再生利用	t	4.339	4.358	4.874
		単純焼却	t	0.324	0.381	0.467
	産業廃棄物	再生利用	t	-	0.090	1.390
③-1 総排水量	公共用水域	m ³	0	0	0	
	下水道	m ³	330	338	414	
③-2 水使用量	上水	m ³	19	19	366	
	工業用水	m ³	0	0	0	
	地下水	m ³	311	319	48	
⑤ エネルギー使用量	購入電力（新エネルギーを除く）	MJ	866,121	964,559	977,466	
	化石燃料	MJ	136,473	111,240	133,047	
	新エネルギー	MJ	0	0	0	
	その他	MJ	0	0	0	
⑥ 物質使用量	資源使用量	t	8.57	8.24	11.85	
	循環資源使用量	t	4.75	4.38	5.28	
⑧ 総製品生産量または 総商品販売量	製品生産量等	t	4.31	4.47	7.18	
	環境負荷低減に資する製品等	t	0.00	0.00	0.00	
	容器包装使用量	t	0.55	0.43	1.05	

※購入電力の二酸化炭素排出係数は、環境省発表平成28年12月27日（平成27年度/2015年度）東京電力エナジーパートナー(株)実排出係数0.500.(kg-CO₂/kWh)を使用

6.環境目標及び実績

1) 中期環境目標

項目	基準年実績 2016年	単位	2017年		2018年		2019年		
			目標値	増減率	目標値	増減率	目標値	増減率	
二酸化炭素の削減	56,544	kg-CO ₂	54,847	-3%	53,717	-5%	52,586	-7%	
節電 100V	18,083	kWh	17,541	-3%	17,179	-5%	16,817	-7%	
200V	80,041	kWh	77,640	-3%	76,039	-5%	74,438	-7%	
ガソリンの節減	2,193	ℓ	2,127	-3%	2,084	-5%	2,040	-7%	
軽油の節減	852	ℓ	826	-3%	809	-5%	792	-7%	
燃費向上	プリウスa	20.76	km/ℓ	20.76	維持	20.76	維持	20.76	維持
	ハイエース	11.43	km/ℓ	11.43	維持	11.43	維持	11.43	維持
	プリウスS	26.64	km/ℓ	26.64	維持	26.64	維持	26.64	維持
コピー用紙使用量の節減	96	kg	93	-3%	91	-5%	89	-7%	
節水	319	m ³	319	維持	319	維持	319	維持	
梱包資材使用量の節減	431	kg	418	-3%	409	-5%	401	-7%	
一般廃棄物の節減	479	kg	464	-3%	455	-5%	445	-7%	
成形材料再生プラ排出量の削減	3,770	kg	3,770	維持	3,770	維持	3,770	維持	
エコ製品の販売	断熱金型	0	型	25	—	25	—	25	—
	E.S.スブルーブッシュ	84	本	200	—	200	—	200	—

2) 目標に対する実績

項目	2017年					
	目標値	単位	実績	増減率 (目標に対して)	2016年 対比	
二酸化炭素の削減	54,847	kg-CO ₂	58,684	+7% ☹	+4%	
節電 100V	17,541	kWh	18,951	+7% ☹	+5%	
200V	77,640	kWh	80,486	+4% ☹	+1%	
ガソリンの節減	2,127	ℓ	2,171	+2% ☹	-1%	
軽油の節減	826	ℓ	1,378	+40% ☹	+38%	
燃費向上	プリウスa	20.76	km/ℓ	20.84	+0.4% ☺	+0.4%
	ハイエース	11.43	km/ℓ	11.00	-4% ☹	-4%
	プリウスS	26.64	km/ℓ	26.22	-2% ☹	-2%
コピー用紙使用量の節減	93	kg	110	+16% ☹	+13%	
節水	319	m ³	414	+23% ☹	+23%	
梱包資材使用量の節減	418	kg	1053	+60.3% ☹	+59%	
一般廃棄物の節減	464	kg	671	+31% ☹	+29%	
成形材料再生プラ排出量の削減	3,770	kg	4,670	+19% ☹	+19%	
エコ製品の販売	断熱金型	25	型	5	-	-
	E.S.スブルーブッシュ	200	本	56	-	-

※購入電力の二酸化炭素排出係数は、環境省発表平成28年12月27日（平成27年度/2015年度）

東京電力エナジーパートナー(株)実排出係数0.500.(kg-CO₂/kWh)を使用

※「灯油の節減」は現在使用頻度が激減した為、管理項目より排除

7. 環境活動計画の取組結果と評価

1) 二酸化炭素排出量削減(節電)

方針		二酸化炭素排出量削減(節電)	
目標達成手段： 省エネ目標説明 節電運転展開 ・コンプレッサーエア漏れ対策（チェックシートは削除） ・成形現場での節電⇒成形不良品を無くす ・デスクトップの電源OFF設定（5分以下）、スリープモードの設定（10分以下） ・スイッチON・OFFの徹底(不在時のデスクトップ・照明の電源オフ) ・省電力の機器購入の促進			
			
達成状況／是正策 (実施責任者)		評価／指示 (環境管理責任者・代表者)	
3月	固定炉について、材料乾燥が終わったらスイッチをOFF 成形機を使用しないときはヒータをOFF <ハジメ事業部> 真空容器製造に使用するエアコンプレッサは、 昼休みなどはスイッチをOFF	200度を超えるヒーターなどは長期間使用しない場合のOFFは効果的ですが、比較的短いスパンでのON/OFFは却って消費電力の増加に繋がってしまいます。どのタイミングで切るかはしっかりと見極めて下さい。	
6月	成形室夜間稼働エアコン29度の徹底 POM等水分率が上がり難しい材料は、無乾燥にて成形（固定炉の使用無し） 真空パックして発送されてくるPAや、固定炉にて乾燥済の材料を真空パックで保存（繰り返し固定炉を使わない）	固定炉の使用時間を減らすことは消費電力の削減に繋がりますが、材料乾燥が十分かどうかもきちんと確認しましょう。成形不良の起きない状況であれば優先的に真空パックを利用していきましょう。	
9月	使用しない成形機の電源OFFにする エアコン使用時、窓・ドアを開けたままにしない様にする <ハジメ事業部> 真空容器製造に使用するエアコンプレッサは、 昼休みなどはスイッチをOFF	エアコンを付けている際、冷気や暖気が逃げない様に、こまめにドアの開閉をお願いします。引き続き、不要な電源はOFFの活動をしましょう。	
12月	全体通してエアコンや照明使用時、終わったらこまめに電源をOFFにする。不要な照明や電源は使わない。	人が居ない時や、使用しない家電製品の電源はOFFにする活動をお願いします。昼休みの消灯チェックを引き続き、お願いします。	
総括	次年度も電気節約の呼びかけ、活動を宜しくお願いします。特にハジメ館の節電対策を宜しくお願いします。		

2) 二酸化炭素排出量削減(燃料)

方針	二酸化炭素排出量削減(燃料)	
自動車燃費向上手段 *急加速・急停車の防止（テプラにて喚起） *タイヤ空気圧チェック⇒毎月末に1回～(チェックリスト使用・強化項目)（テプラにて喚起） *暖気運転防止⇒ブルーシート使用にてフロントガラスの凍結防止 *エコドライブ継続の呼びかけ⇒減速、停止する際はエンジブレーキを活用 *A/Cを極力使用しない(A/CボタンOFF) ※特に冬場の暖房（テプラにて喚起） *各車前年度実績リッター平均の走行距離を算出・確認し、+1キロ分走行距離を伸ばす。 【2017年6月23日】月別目標値を再設定。前年度実績リッター平均の走行距離を目標とする。 《プリウスS》26.64km/1ℓ 《プリウスα》20.76km/1ℓ 《ハイエース》11.43km/1ℓ ※プリウス各車は燃費確認後、走行平均距離をリセットして月ごとの割り出しを行います。		
	達成状況／是正策 (実施責任者)	評価／指示 (環境管理責任者・代表者)
3月	当月まで燃費設定目標を達成出来ず。この時期はスタッドレスタイヤ着用のため、通常より燃費が落ちたことも原因のひとつと考えられる。来月以降タイヤが全車交換されるため、タイヤの空気圧チェックも含め、考えうる燃費向上の対策をとる。	空気圧、タイヤ環境による燃費悪化の影響は今後のタイヤ履き替えに合わせて違いを検証してみよう。本年はエコドライブについて勉強会を開く予定です。この機会に改善などを呼びかけていきましょう。
6月	全車完全にタイヤ交換が終わってなお、当初の計画達成に至らず。昨年度の記録には到達可能と判断し、計画値を下方修正させて頂きます。5月にエコドライブの講習を行っており、その結果を継続して確認します。尚、タイヤの空気圧チェックは2ヶ月に1回とさせて頂きます。	車の経年劣化や年間走行距離などから目標値の下方修正は止むを得ないかと思えます。これからはクーラーの使用で消費電力が上がりますのでエコドライブの呼びかけをしっかりと行っていきましょう。
9月	計画値修正後、エアコンの使い方によっても差が出る事が判明。また、プリウスαについては年数経過・走行距離の影響により燃費が悪くなるともトヨタの方からアドバイスあり。空気圧は2か月毎に調整を継続しますが、今後冬用タイヤへの交換で更に影響が出るので注意深く確認・呼びかけ致します。	冬用タイヤでは燃費が低下するとの事なので、エコドライブの呼びかけ、不必要な暖房はOFFの呼びかけをお願いします。霜対策のビニールシート運動も実施して行きましょう。
12月	11月～12月にかけて全車冬用タイヤに変更完了。トヨタ営業の鈴木様に確認したところ、冬用タイヤでも空気圧は規定値をキープすることの説明を受けたので、今後も継続して2ヶ月に1回は空気圧チェックを行います。	暖房等で車の燃費が悪くなる季節ですが、タイヤの空気圧が通常タイヤと同じで良いとは朗報です。車の燃費に直結する空気圧チェックを引き続きお願いします。
総括	車の経年劣化による燃費の低下を解決するのは中々難しいと思えますので、そのあたりの所を二月の審査の際、担当の方に確認します。引き続き次年度も燃費改善の為に、エコドライブにつながる活動を考えて行きましょう。	



3) 再生プラ量削減

方針	再生プラ量削減	
目標達成手段： ①ページの簡素化・周知化（継続） ②新しいページ材の選定と廃材削減 ③リサイクル材と雑プラの分別管理徹底		
	達成状況／是正策 (実施責任者)	評価／指示 (環境管理責任者・代表者)
3月	過去実績と比較するとほぼ例年通りの排出量となっている。成形の際に余分なページをしない、再生材の有効活用などを引き続き進めていく。洗浄剤に関しても洗浄力の高いものを選択していくなど、排出量を減らす活動を続ける。	廃プラのデータは本年が基準年となるため、排出量を抑えた成形を心がけていくよう呼びかけていきましょう。
6月	次回廃棄は7～8月引き続き排出量の削減に努める。	POM洗浄の際、東洋クリーンを積極的に使用し、雑プラの排出を少なくして行きましょう。
9月	次回廃棄は10月引き続き排出量の削減に努める。	製品に影響無い範囲で、適切なページ量を心がけ無駄な雑プラを出さない様にしましょう。
12月	年末廃棄分の量が予定よりも多くなっている。雑プラ含め排出量の削減に努める。	適切なページ手順徹底してもらい、雑プラ、再生プラの排出量を減らしていきましょう。
総括	来年度も雑プラを減らす為、材料の細分化を進めて、再生プラの割合を増やして行きましょう。	

4) 廃棄物排出量削減

方針		廃棄物排出量削減	
一般廃棄物削減目標説明			
目標達成手段			
①コピー用紙 使用量削減	<ul style="list-style-type: none"> * 書類整理による裏紙回収量UP * FAXのペーパーレス化 * ミスコピーの防止 * 集約印刷、両面印刷、小サイズ印刷の推進、議事録は集約印刷の徹底 		
②廃棄物の削減	<ul style="list-style-type: none"> * シュレッダーゴミを梱包材にて再利用 * 分別による古紙のリサイクル化 * ゴミ分別徹底の意識付け * 購入前に本当に必要性があるか再確認してからの購入 		
達成状況／是正策 (実施責任者)		評価／指示 (環境管理責任者・代表者)	
3月	<p>コピー用紙：真空米びつパンフレット、会社説明会資料等の印刷物が多かった為、使用量が増えたと考えられる。5月20日3S活動後に机整理し、裏紙出す。廃棄物削減：(一般廃棄物)1月は大掃除に出たゴミ、3月は退職、入社に伴う廃棄物が多かったと思われる。</p> <p>(資源)購入備品のダンボール等のゴミが多かった為。無駄なものを買わない。</p>	<p>人の異動や新事業に伴う影響が濃く出た結果だったと思います。今後は発生したダンボールやシュレッダーごみなどを梱包材として有効活用するようさらに呼びかけていきましょう。</p>	
6月	<p>コピー用紙：6月はハジバックの展示会に出展に伴いパンフレットを大量にコピーした為使用量が増えたと考えられる。</p> <p>廃棄物削減：(一般廃棄物)4月、6月は退職、5月は5S活動で整理していらぬ物を捨てた為多かったと考えられる。</p> <p>(資源)原因として古いダンボールと材料袋を廃棄したため多かったと考えられる。引き続き無駄なものを買わない。</p>	<p>引き続き人の異動による影響が出ています。シュレッダーごみの梱包材化などで極力排出量を抑えるようにしていきます。</p>	
9月	<p>コピー用紙：8月に支払条件変更通知105社へ発送(B5,A4各105枚使用)を行った為、使用量増</p> <p>廃棄物削減：7月は退職に伴う書類整理の為シュレッダーゴミ増(家庭ゴミ)</p>	<p>引き続き裏紙を積極的に使用して行きましょう。</p>	
12月	<p>コピー用紙：制御環・出力部材の注文数増により、検査表や現品表のコピーが増えたため、コピー用紙の使用量が増えたと考えられる。無駄なコピー等はしないように、引き続き呼びかけを行う</p> <p>廃棄物削減：餅つき、納会、大掃除、ハジバック関係のゴミが多かった為、ゴミ増と思われる。</p> <p>梱包材：制御環・出力部材の納品数増、かつ、ダブルに変更した為、重量増加をしたと考えられる。</p>	<p>製造状況の変化で、コピー用紙使用量や梱包材の増加と言う事で、目標の見直しが必要かもしれません。</p> <p>二月の審査の際、製造状況の変化による目標の再設定について、担当の方にお伺いします。</p>	
総括	<p>極力裏紙を使ってもらう働きかけや、一般廃棄物を減らす為、ごみ分別の社員全員に周知徹底を次年度もお願いします。</p>		

5) 水道水の削減

方針	節水
水道水削減目標説明	
※2015年度より経過観察項目の為特記無し	

6) グリーン調達

方針	グリーン調達
グリーン調達目標説明	
目標達成手段： 年間10件のグリーン調達を目標（2016年実績8件） 「環境に配慮した社会性のある仕事で世の中に貢献する」という企業理念を下に引き続き、新規購入品は必要性を十分に考慮、品質や価格だけでなく環境ラベルであることを基準に、グリーン商品やリサイクルマーク製品、簡易包装を選択し、購入する。	
評価／指示 （環境管理責任者・代表者）	
総括	前年度と比べて調達件数が減少し、奮わない結果となった。これは単純に日用品等がグリーン調達品への切り替えが進んでいることもあるが、社員が新規購入品を購入する際に、グリーン調達品か否かの確認をする「意識付け」が徹底されていないのも一因と考える。次年度は呼びかけで無く、グリーン調達導入を推進できる実際の仕組みを構築していくことを目標に掲げる。
総括	グリーン調達品への切り替えが進んでいるという事は良い傾向だと思います。 次年度は今までより更にロイアル全員がグリーン調達を意識できるような仕組みづくりを考えて行きましょう。

7) 環境配慮の製品の提案

方針	環境配慮の製品の提案
目標達成手段： 断熱製品のシェア拡大により環境問題貢献 断熱金型販売目標25型/年 ESスプルーブッシュ販売目標200本/年 社内量産品のE.S.スプルー化	
	
<p style="text-align: center; color: green; font-weight: bold;">【環境配慮製品－断熱金型・E.S.スプルーブッシュー】</p> <p>プラスチック成形では生産効率を向上させる為、機械による金型の急温・急冷を行うことがありますが、通常成形以上のエネルギーを消費する事が環境配慮の点で問題となっております。</p> <p>また製品までの流路部(ランナー)の廃棄量削減もまた課題として挙げられます。</p> <p>弊社の「断熱金型」「E.S.スプルーブッシュ」(成形時に用いる部品)はこれらの問題を解決。</p> <p>樹脂の熱量だけを利用して高品質成形が可能な為、ムダなエネルギー消費がなく、またランナー部をスリム化しての成形も実現いたします。</p> <p style="font-size: small;">この製品技術が環境に寄与できるものと考え、弊社といたしましては「環境配慮製品」と定め、提案・普及活動を行っております。</p>	
評価／指示 （環境管理責任者・代表者）	
総括	目標、前年度と比べ思うように普及が進まなかったが、販促ステッカーの導入や社内ESスプルー化等、新しい試みには取り組んでいるので、新たなエコ製品である真空パックと併せて、どのように販売、普及を進めていくかを今後の課題としたい。
総括	社内でもESスプルー化が進んでいます。成形材料の節約や不良対策にもなっています。引き続きお客様にESスプルーのPRをお願いします。また次年度より、弊社で真空パックを製造していますので、エコ商品押しで販売促進をしていきましょう。

8. 次年度の取組内容

次年度は本年度の活動内容を引き続き継続する他、以下に注力した活動を展開する。

*各チーム（特に電気、一般廃棄物量、自動車燃費、再生・廃プラ）の実績目標の見直し※3ヵ年目標も含む

*エコカーの導入（車両切り替え時期にあわせ実施／継続）

*無乾燥成形・真空パックによる材料保存の推進（電気・動力の削減）

*材料替え洗浄マニュアルの作成（廃プラ削減の項目として）



9. 環境関連法規等遵守状況

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境法規制等の逸脱はありませんでした。また関係当局より違反等の指摘は、過去3年間ありません。

関連法規

法令	廃棄物の処理及び清掃に関する法律（廃棄物処理法）
	特定家庭用機器再商品化法（家電リサイクル法）
	使用済小型電子機器等の再資源化の促進に関する法律（小型家電リサイクル法）
	国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律（グリーン購入法）
	使用済自動車の再資源化等に関する法律（自動車リサイクル法）
	消防法
	フロン排出抑制法
条例	食品衛生法（告示第370号）
	我孫子市廃棄物の減量、資源化及び適正処理に関する条例
	我孫子市環境条例
	我孫子市火災予防条例



10. 代表者による評価及び見直し

各目標の見直しが必要である。

何故目標が達成出来なかったかの原因追及・改善案を追及して次年度に生かしてください。



認証番号0005780

この環境活動レポートは、ご希望があれば差し上げています
ご希望の方は下記事務所窓口までお申し出ください
なお、エコアクション21中央事務局のHPでもご覧になれます
(<http://www.ea21.jp/>)

ロイヤルエンジニアリング株式会社

〒270-1143

千葉県我孫子市天王台3-3-5

TEL 04-7183-6100

FAX 04-7183-4415